

めあて

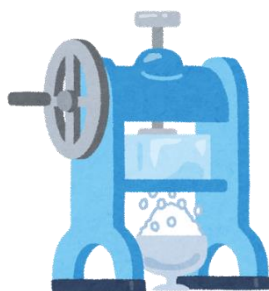
自分のお店を開いたときに、自分のもうけ（利えき）が出るように、商品のねだんをいくりにするのかを、単元で学習した概数の考えを生かして、計算で求めよう。

発展課題 4

大映通りで1か月限定で「かき氷屋」を開くことにしました。お店を開くために、場所代、機材費、材料費、人件費（働いてもらった人への給料）を考え、357800円を銀行から借りる（借金する）ことにしました。かき氷を買っていく客さんは、1日55人とした場合、あなたは自分の利益（借金を全て返した後に残る、もうけたお金）がでるように、かき氷1杯の値段をいくりに設定しますか。



場所代



機材費



ざいりょうひ
材料費



じんけんひ
人件費

357800 円

(借金：357800 円)

※借金を返済し（借りたお金を返し）、自分の利益（もうけ）を出したい



はい
1 杯〇円にする？

学習の手順（例）

- ① 1 か月（31 日間）におよそ何人のお客さんがくるのか、がい数を使って求める（提出物）
- ② 借りたお金を全て返すには、最低でもかき氷 1 杯何円にしなければならないのか、がい数を使って求める（提出物）
- ③ 自分の 1 か月の利益^{りえき}（借金を全て返した後に残る、もうけたお金）の目標金額を決め、1 杯何円にするのかを、がい数を使って求める（提出物）

例：1 か月に 10 万円は利益^{りえき}がでるようにしたい。だから銀行に返すお金と合わせて、
1 か月 457800 円は売り上げないといけない。だから・・・

学習の条件など

- ・計算は自分で行う。
- ・四捨五入する“位”（十の位、百の位など）は、自分で決めてよい。

提出①

- ・学習の手順①（一か月に来るお客さんの数）
- ・学習の手順②
（借金が返せる 1 杯のねだんを求めた式とその答え）
- ・学習の手順③
（目標金額と、それをふまえて 1 杯のねだんを求めた式とその答え）

※ノートにかいたものを写真にとって提出。

もしくは、

自分なりにわかりやすくまとめて提出。